

GOKURAKUJI DAYORI
極楽寺だより
2025(令和7)年 11月号



発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派）〒759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎ 0837-43-0625

秋の永代経法要の
ご案内

十一月十一日（水）

昼一時半
夜七時半

十一月十二日（木）

昼一時半

講師 美祢市 明嚴寺住職

中島昭念 師

住職が子どもの頃は、山を走り回って遊んでいました。しかし、今は大人でもなかなか入ることができません。なぜなら、山に入る人がいなくなつたことで、道がなくなつてしまつたからです。先に行く人が踏みしめる歩みによつて、道はできるのです。

私たちのところにまで、お念佛の教えが伝わってきたのも、先だつての道を歩まれた「先祖」があるから、志^{むね}を納めお寺を護つて下された先輩方があるからなのです。そして次に歩む者がなければ、道は途絶えてしまいます。

永代経法要とは、永代にわたり伝えられたこの教えを感謝と共にいただき、永代にわたり伝えていこうという尊い當みなのです。

えいたいきょうほうよう
永代経法要とは





オシエノカケラ

新シリーズ～癌と共に～ 第三回

「死の姿容と不安について」

【現状報告】

（）のところ、ずっと入退院を繰り返しています。数えてみると、（）五ヶ月で七十日くらいの入院になりますか。でも、体感は8・2くらいで、病院生活の方が長く感じています。とはいっても、悪くなっているわけではありません。癌は大きくなるらず、転移もしていません。

ただ先生としては、もう少し小さくなつて欲しいということです。「この薬の方が合つては」と試行錯誤されるわけです。

みじみと味わっています。

メント・モリ（死を思え）

（）が変わると、副作用を見るために三週間入院が伴います。

その後、一週間あけて二泊三日、一週間空けて二泊三日と薬を入れる短期入院を繰り返し、様子を見て。また薬を変えることになれば、三週間。その後一週間空けて…と続くわけです。

さて、近頃は薬の研究が進んだことで、癌の生存率は、昔よりかなり高くなっているようです。とはいっても、癌を告知されたことをきっかけに、頭のどこかでいつも死を意識しながら生きるようになりました。ただそれは、ネガティブな感情ではあります。

ラテン語に「メント・モリ（死を思え）」という言葉が

あります。この言葉について思想家の

内田樹先生は、「当分オレは死はないだ

ろう」と高をくくつて暮らしている場

合よりも、生きている時間の質が高ま

る。ひとつひとつの経験の意味が深ま

り、ひとつひとつの愉悦の奥行きや厚みが増す。生きることの

深みや厚みや奥行きを味わい尽くしたいと願うなら、「死を思

え」。そう理解していると言われています。(『困難な成熟』内田樹)

いや、本当にそうですよね。もしかしたら、これが最後の出

会いになるかもしれないと思うと、この一時が愛おしくて。家

族と話しながら、「あなたたちと出会えて、良かった」「あなた

と出会えたからこそ、私の人生はこんなにも豊かだった」と感

じられたり。そんなことって、普段は気恥ずかしくて素直に思

えないし、口にも出すなんてとんでもない。ところが「死」を

リアルに突きつけられると、意外や意外。素直に思えてくるの

です。死を意識することが経験の意味を深め、愉悦の奥行きや

厚みを増すという内田先生の指摘には、肯くばかり。ただ、

死と向き合つには、やはりそれなりの段階が必要ではあるよう

です。



死の受容過程

アメリカの精神科医であるエリザベス・キューブラー＝ロスは、「死の受容過程」を五つの段階で示しています。

現実を受け容れられず（否認と孤立）、憤りに捉わられて周囲

に怒りをぶつけ（怒り）、信仰心がなくても神仏に「助けて欲

しい」とすがり（取り引き）、悲觀と绝望に打ちひしがれ（抑

うつ）、最終的に現実を受け容れ、心の平静を取り戻していく

（受容）という過程です。ただし、この段階通りに辿つて行く

とは限らないようで、行きつ戻りつ葛藤を繰り返す人もあり、

一方では、達観して早い時期に受容する人もいるのだとか。

とはいって、いくら頭で理解していても、現実を突き付けられ

ると、大多数の人々が狼狽えるのではないでしょか。達観し、

すぐに受容できる人の方がまれでしょう。ちなみに、「どうせ

肯くばかり。ただ、

「今日、家の鍵を閉めたかな」「もしかして、陰で笑われているかも」「私だけ、みんなに乗り遅れてるんじゃないか」。不安とは、ある時何の根拠もなく、ふつと思つてしまつたことで起ころうだと。

それは私たちの日常を支えるものが、根拠のない自信だからなのでしょう。事件や災害が起ころる。「大丈夫だろ、うか」と不安になる。ところがしばらくすると、慣れたり忘れたりして「大丈夫だろ、う」と以前の日常に戻つている。どちらも、何の根拠もありません。根拠がないから、それが揺らぐと不安が起ころる。そして時間が経てば忘れ、また揺らぐ。この連鎖は、いつまでも止まりません。それほど人間という存在が、愚かで弱いといふことなのでしょうか。

実は舟津先生に、興味深い指摘があります。なんと、この「不安には根拠がない」という人間の本質を利用した商法が、昨今一般化しているのだと。

例えば、ある就活（就職活動）仲介サービスの企業では、学生に「一回生の時から就活しましょ、うね。隣の友達が内定を

もらっているのに、自分がもらつていなかつたら嫌ですよね」と語りかけ、「私たちにご相談を」と、さも当たり前のようニアピールするのだと。それを見た舟津先生は、「最近の企業は学生を脅し不安を煽つてでも、ビジネスチャンスを得ることに全く躊躇がない」ことに、愕然としたそうです。しかも近頃の学生たちにとつて、友達から取り残されることは死活問題になつていて。そんな現状を、きつちりリサーチした上で、消臭剤ビジネスも同様です。

「あなたはクサイかもしねれない」と不安を煽る。自分がクサイかどうかを知覚するのは難しいことです

が、一旦「におうのではないか」と不安になりえすれば、ずっと買つてくれる。

とにもかくにも、彼らは物凄く顧客調査をしていて、人がどこを付かれると不安になるかを理解している。そして不安を利用して、需要を生み出している。不安には根拠がないから植え付けやすいし、煽りやすい。ビジネスにするにはうつてつけ。



この方法論は、誰もが聞いたことのある大手企業も、率先して取り組んでいるのだそうです。何とも、世知辛い世の中です。（『世代化する社会』舟津昌平）

不安は消せない

しかし死にに関しては、確かな根拠があります。誰もが死から逃れられないことは、厳しく事実です。それを私たちは、「自分が死はないだろう」「まだまだ大丈夫」と、根拠のない自信で誤魔化してはいないでしようか。だから、自身が死を突き付けられたら、近しい人が亡くなつたら、その自信が揺らいで慌てふためく。それがキューブラーリロスが指摘する、「受容」までの四段階なのでしょう。しかも、自信が揺らぎ不安が起きた状況をビジネスチャンスとして狙つている人が多い時代に、私たちは生きているわけですから、これもまた恐ろしい。

では、不安とどう向き合えばよいのでしょうか。現代社会の→

多くの人は、不安は消すことが解決だと考えています。しかし残念ながら、誰もが不安から逃れられません。その上、どこを付くと不安になるかを研究した大手企業が、率先して煽つているわけですから、なくなるはずもありません。

そして宗教の役割^{こころ}も、不安を消すものとして考えられてはいいでしようか。しかし私は、親鸞聖人が指示してくださった阿弥陀さまの教えによつて、「不安は、消せないんだ」「消さなくてもいいんだ」と気づかされたのです。

確かな拠り所があるからこそ

以前、友人の住職が、白血病で亡くなりました。彼は病気を告知された時も、その後の治療過程においても、現実を真正面に受け容れて、日々を精一杯生き抜こうとする人でした。そんな姿に、私は常々尊敬の念を抱いていました。その後が亡くなれる少し前のこと。久しぶりに会える機会がありました。

その時彼は、こんな話をしてくれたのです。「周りから見

たら、僕はいつも前向きに生きる、強い人間だと思われているかもしません。でも、こんなボクでも、不安で眠れない時があるんですよ」と。

骨髄移植を受けても、病状は一進一退。なかなか回復には至らない。

「明日の検査は、良い数値がでるかな。また、ダメなのかな」、そんなことを思うと、大きな不安に襲われて眠れなくなる。不安は、また不安を呼び深まっていく。真っ暗な底の

ない闇に墮ちていくような感覚に、恐怖を覚える。自分自身が見失われ、ただただ否定的な考え方しか思い浮かばない。前向きな言葉、立ち向かおうとする思いなんて、まったく出て来ない。

「そんな時、フッと聞こえてきたんです。阿弥陀さまが受け止めてくださる。阿弥陀さまにおまかせするしかない。お説教で聞いた言葉が思い出された時、墮ちていく感覚が止まつたんです。この拠り所があるからこそ、我に返ることができた。これが、どれほど有難いか。どんなに大きなかことか」。

彼は、不安がなくなつたと言つていいわけではありません。



不安を抱えたままの私が、受け止められる世界と出遇えた。



その時、地に足が着くように、我に返ることができた。この確かな拠り所と出遇えたよろこびを、語ってくれたのです。



このようなことを書くと、「そもそも、仏さまや阿弥陀さまこそが「根拠のない」ものではないのか。結局は根拠のない自信で、誤魔化しているだけではないか」と言われる方があるかもしれません。しかし、私の先を歩んでくださる方の足取りは、確かなのです。不安の中で、あつちに行つたりこつちに行つたりしながらも、受け止められる場所に立ち返り、我を取り戻していく。その歩みに、頼もしさを感じるのでした。だからこそ、「目には見えなくとも、ここには確かな道がある」「この拠り所は確かだ」と知られるのです。

何より阿弥陀さまは、「不安を消さないとダメだよ」とは言われません。不安を煽ることもされません。人間である限り、不安はつきものだと認めてください。人間の弱さを、その



ままに受け容れてください。だから私も、安心して不安になれる（やっぱり、ややこしいですね）。

おまけに、この拠り所に立ち返るとき、生きている時間の質が高まるのです。ひとつひとつの経験の意味が深まり、ひとつひとつ愉悦の奥行きや厚みが増していくことを実感しています。

不安が歩みを生み出す

ちなみに、真宗大谷派の僧侶・安田理深師は、不安こそが阿弥陀さまのはたらきだといわれました。根拠のない自信が揺さぶられ、不安が起ころるからこそ、「これでよいのか」と自らを問い直す営みが始まる。自分の人生を見つめ直すことも、確かな拠り所を求めようともする。その歩みの背を押すものこそ、なのだと。

今の私には、深く肯ける話です。確かに不安がなければ、自

分の人生を問いただすなんて、なかなかしませんよね。哲学者のマルティン・ハイデガーは「不安は私たちを存在の根源的な意味の前に連れ戻すはたらきをする」といったとか。やはり、不安は消そうとするものではなく、向き合うべきものであり、確かなものを見るよう背中を押してくれます。大切な縁だと思います。

不安を通して、我を見失う人がいる。しかし、不安を通して、自分の人生と向き合い、自分の立ち返る場所を確かにのする人もいるのです。

よろめきながらも、確かな足取りで歩まれた方々の歴史が、死の現実を、そして自分の人生を受容する道を、私に指示してくださっています。■



お取越しの季節です



お寺にご連絡下さい。
日程を調整した上で、
お参りにうかがいます。

「お取越し」とは、真宗寺院において

最も大切な行事である親鸞聖人のご法事「報恩講」を、ご命日よりも取越し（早めて）各家々で勤めるという、真宗門徒にとって大切な伝統行事です。

親鸞聖人は、誰もが尊ばれ敬われる

お念佛の教えを、一生をかけて明らかにされました。そのご苦労があつたからこそ、私の人生を尊び、敬うことができるといただかれた先輩方が、この行事を大切にされたのです。

近頃は、「自分の人生を尊ぶ」との意味が、わかりにくい時代になりました。だからこそ、この行事の重要性も高まっているのではないかと、住職は考えています。

若院通信



気温も落ち着き、まばらに雨が降り始めて

秋らしくなりました。寒暖差も激しく、体調を崩しやすい時期でもあります。私も少し鼻声になっています。

お取越しの時期になりましたので、多くの門徒さんの家にお参りしています。まだまだ家の場所とお名前を覚えられないところが多いです。

しかし、配り物やお盆、今回のお取越しの

ような機会で、直接伺うことで、少しずつではありますが、身についているように感じています。



河津桜が心配です

毎年二月末には、綺麗な花を咲かせ、私たちを楽しませてくれる極楽寺駐車場の河津桜。どうもおかしいのです。早くから葉っぱが枯れて、八月末にはすっかり葉が落ちてしまいました。病気なのでしょうか。住職は、とっても心配しています。

極楽寺だよりを
送りませんか？

都会に出ておられる子どもさん、
お孫さん、有縁の方々へ。
お寺へお申し出下さい。直接郵送します。
送り先が増えると、住職はうれしいのです。

月々の言葉

monthly Words



豊かだから

施すから 施すのではない

豊かなのだ



極楽寺掲示板

10月の言葉

らね。最後に一言、御礼を言つくらいはしても良いのではない
かと思いますよ」と答えました。すると、ハツと我に返ったよ
うに「そうですよね」と肯かれ、憑き物が落ちたように、今度
は積極的に挨拶まわりをされたのです。

私はその時、ふと恐ろしいことに気がついてしまったのでした。
私たちは無自覚に、ある考えを刷り込まれてゐるのではないか
と。まさに、マインドコントロールに近い状況にいるのではないか
とかということを（陰謀論ではありません。ご安心を）。

近頃の私たちは、「これは、しなくてはならないよ」と言わ

れると、反射的に「強制」や「押し付け」だと受け止めてはい
ませんか。いや、「私は、自由を侵害さ

れ、負担を強いられている」と、極端

な被害者意識を持つ人さえいる時代で
す。もちろんそこには、実際に強制や
ハラスメントのケースもあります。しかし、すべてをそつだと
決めつけるのは、あまりにも浅慮に過ぎます。



「こちらの方では、そこまでしなくてはいけないのですか！」
と、少し怒気を含んだ口調で尋ねられました。そこで私は、「お
ばあちゃんは、近所の人たちと一緒に生きてこられましたか
→

考えてみれば私たちは、先人から多くのものを受け継い
→

できました。ところが最近は、その内容を吟味することなく、

「目先の「快適か」「効率的か」「合理的か」ばかりを追いかけ、

「面倒くさいこと」「非効率的で非合理的なこと」は、すべて切

り捨てる、そんなマインドに染められているのではないでしょ

うか。だから、自分が嫌なことは、すべて「強制」「自由の侵害」

「負担」だと決めつけてしまうのではないですか。

でも私は、一般的にネガティブな感情として敬遠される「悲

しみ」や「痛み」が、豊かな成長を促し、大切な学びを生む

ことを、葬儀の場で目の当たりにしてきました。人生の深さは、

目先の効率性や合理性では、量り知れないとも、思い知らされ

ています。ただそれとも、近頃は「効率」が優先され、「負担」

だと感じられ、簡略化されている。本当に、寂しい限りです。

ともあれ、娘たちが私の一言で行動を変えられたのは、

子どもの頃の思い出が蘇り、具体的で手触りのある関わり合

いが呼び起されたからではないかと思うのです。

大袈裟かもしませんが私はそこに、刷り込まれていた考え

から離れ、人間としての温もりを取り戻した姿を、感じたの

です。まさに、「我に返った」「憑き物が落ちた」という表現がピッタリだと思いました。

では、なぜ私たちは、ここまで目先の効率性や合理性に捉わ

れているのでしょうか。

実は、20世紀前半を代表する経済学者ヨーゼフ・シュンペー

ターが、興味深い指摘をしています。資本主義が広がっていく

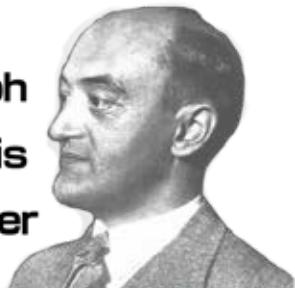
と、合理的な思考が人々に蔓延する。すると、非効率的な行為や非合理的な考えは排除されていく。次の世代にならないと結果が出ないような研究は、非効率的だと

見られ投資されなくなる。すぐに結果が出るもの、目先の損得ばかりを追いかけるようになって、いつしか「自分が死んだ後のことなんか、知ったことか

「自分が楽しめればいい」「生きているうちにすべて消費してしまおう」という

長期的な視野を失った人びとを生み

Joseph
Alois
Schumpeter



出すのだと。

現代社会の有り様をそのままに表しているようなシュンペーターの指摘は、約八十年前に予見されたもの。何という慧眼なのでしょうか！

※ちなみに、プロ野球のオリックスバファローズ

で二〇一二年に新人王を獲得した山下舜平



太投手は、シュンペーターにちなんで命名

されたのだそうです。

ところで、ミープ・ヒースというオランダ人の女性を存知

でしょうか。彼女自身はあまり知られていませんが、彼女が助けた人はよく知られています。彼女は、『アンネの日記』の作者アンネ・フランクの一家を、ナチス・ドイツの迫害から守り、匿つていた人なのです。ヒースはごく普通の事務員でしたが、二年間もの間、アンネたちの隠れ家に食事や本を届け続けました。

実は彼女自身、子どもの頃に助けられた経験を持つています。

す。第一次大戦後、大変な不況がヨーロッパを襲いました。このとき、オランダの労働者たちが列車を仕立てウイーンに走らせ、飢えている子どもたちを引き取り、元気にして帰すという運動を始めたのです。もちろんオランダの労働者たちだって、貧しかったし、ゆとりがあるわけではない。でも、二人育てるのも三人育てるのも、たいして変わりはない。もう少し努力すればできる。そう考えた人びとが運動に加わりました。ミープ・ヒースはそうして、ウイーンから連れてこられた子どものひとりだったのです。（『幸福に驚く力』 清水真砂子）

ヒースたちの時代よりも、私たちが生きる現代社会は、遙かに恵まれた環境だといえるでしょう。確かに、モノに溢れています。しかしそれが自分のモノを握りしめ、分かち合うこともない。目先の損得ばかりを優先し、お付き合いや支え合いなど考えない。そんな考えが蔓延しているのではないでしょうか。ましてや、「二人育てるのも三人育てるのも、たいして変わりはない」と言えるようなマインドは、すっかり失っています。

私たちには、実は心貧しい生き方をしているのでしょうか。豊か

だから施すのではない。施せる人が豊かなのだと、つくづく思

い知られます。



またヒースは、「私はヒーローなどではない。／もつと多くの一

はるかに多くの——ことをした良きオランダ人たちの、長い長い

列の端に連なっているにすぎない」(『思い出のアンネ・フランク』)

と語っています。私に先立つて、多くの人たちがなされた良きおこないに、私は連なっているだけ。その歴史を受け継ぎ、列の端にいるだけなのだと。そこには、確かな温もりと、具体的な手触りがあります。広々とした心と深い豊かさが広がっています。

ならば、私たちが今取り戻すべきは、長期的で広い視野ではないでしょうか。私のところにまで至り届いている、良き人びとの歴史に出会い直す。大きな世界の中に、自分を見出していく。そこから、私に関わってくださっている多くの人びと

と出遇い直していく。そんな長くて広い視野を。

ただ、合理的なマインドが染みついた現代社会に生きる私たちにとって、長くて広い視野や、人間としての温もりを取り戻すことは、かなり難しいことだと思います。でも、それを取り戻すお薦めの場所があるのです。それは、手前味噌になりますがお寺です。

お寺は、非効率と非合理性の最たるものといえるでしょう。だから、良いんです。だからこそ、合理的思考とは違う枠組みで、ものを見たり考えたりできる。頑なな考えが揺さぶられるのです。何より、長い伝統があります。極楽寺の本堂は、たかだか二百年くらいの建物ですが、その二百年という時間の流れを感じることができます。

長い歴史と大きな関係性の中に、今の私の人生があることを味わう。私に届けられた恩に目覚め、自分のいのちの深さと重さを味わっていく。それがまさに、お寺という場所なのだと思います。←



ただ正直言うと、今や私たちお坊さんにも、合理的思考が染みついているのも事実です。そうなると、お寺の存在意義も揺らぎかねません。我に返り、しっかりと危機意識を持つていかねばと思う、今日この頃です。■

2032年完成予定 納骨堂新築に向け 十年計画スタートしています

新規加入者 募集中です！

- ◆ 納骨堂は、お墓を建てるより、費用を抑えることができます。また、維持管理の面やお参りのし易さも、納骨堂の利点だと言えるでしょう。
- ◆ 合同墓、小区画など、様々な形を考えています。お気軽にご相談下さい。
- ◆ 建った後に「入りたい」と言われても、空きがなければ難しくなります。今のうちから、どうぞご検討、ご相談ください。

仏様が
知つて下さついたら
よいではなきか

極楽寺掲示伝道



11月の言葉

私のようなオジさんには理解できないのですが、近頃はSNSなるものに「どこへ行つた」「何を食べた」「今、何してる」と写真に撮り、公開することが当たり前なのだそうです。娘の友人も、普通にしていますし、「今さら何を言つてるのか」とバカにされそなほど、一般化しているようです。でも個人情報を過剰に隠し、プライベートに踏み込まれることを嫌う人が多い時代に、一方では、知らない誰かにプライベートを公開するってどういうこと?もちろん、見せ方に匙加減はあるのでしょうかが、なぜそこまで?オジさんには理解できないと、常々思つてきたわけです。

一説によると、これらは「承認欲求」といわれる行為な

のだと。自分の行動や意見を、「いいね!」と認めてもらいたい。たくさんの人に、共感されたい。注目されて自慢したい。それが「承認欲求」なるもの。なるほど、そういう気持ちなら、私にも少なからずあります。

ただ、仲間内でやるならまだしも、ここまでしないといけないのかなあとも思うのです。「いいね!」を増やすために、他人の目を気にし、ウケを狙い、迷惑行為や過激な言動にエスカレートすることもあるわけで。何やら、小さな子どもが「見て見て!」としつこく繰り返しているようだ、というのは言い過ぎでしょうか。

小さな子どもには、自分の行為を親や身近な人に、「見て見て!」とアピールする時期があります。実はこの「見て見てアピール」の理由も、「承認欲求」なのだそうです。誰もが、自分が頑張ったことや、できていることを認められ、ほめられて、成長していく。やはり私たちは、他者から



認められることによって、自分を確立していく生き物なのでしょう。

ただし、このアピールがしつこい場合には、また別の理由が

あるようです。それが「不安」や「寂しさ」です。メディア

でも活躍中のカリスマ保育士てい先生は、「パパ・ママが忙しいとか、下の子に手がかかって自分に対する愛情が確認できなかったとき、その不安や寂しさから『見て見て』が続くパターンがある」と指摘しています。

ならば、SNSの過度な承認アピールも、実は、不安や寂しさがその理由にあるのではないか。しかも、かなり深刻な問題を抱えているのでは。私はそう

睨んでいるのです。



に対し「近代」は、個人の自由を重視し、個人の選択を原則として、社会の仕組みやルールを作り変えようとしました。

例えば昔は、「家」の存続が優先されました。結婚は「家」

同士が結びつくものでした。それが、「個人」同士へと変わり、いわゆる「核家族」化も進みました。親の言うことに従い、親の仕事を受け継ぐことも少なくなり、親戚や地域、職場のつき合いも、当たり前から煩わしいものへと変わっています。つまり、与えられた人間関係を、自分で選んだものへと変えていく過程、それが「近代化」の一面だといわれるのであります。

そしてもう一つの特徴として、「宗教＝聖なるもの」か

らの解放もあげられます。人間を超えた「聖なるもの」は、畏れるべき対象であると同時に、人々にあるべき姿、進むべき道を示してくれるものでした。同時に、人々を強く縛りつける側面もありました。この「宗教＝聖なるもの」から人々を解放し、個人の意志を新たな価値の源泉とした

政治学者の宇野重規先生によると、「近代」という時代は、縛りつけられてきた「個人」を解放することを、目的の一つとしたのだそうです。古くから続く伝統や慣習、人間関係は、しばしば個人の自由を束縛し、服従を要求します。これ

のが「近代」だと指摘されるのです。（参考『〈私〉時代のデモク

ラシ』 宇野重規）

確かに私たちの世代にとつて、ロックバンドの歌う「自由」

という響きは、キラキラした憧れそのものでした。ところが新自由主義経済が世界を覆い、自由競争が過熱すると共に、富める者はますます富み、貧しい者はますます貧しくなつていく、そんな「自由」の残酷な一面を突きつけられました。「聖なるもの」から解放されたことで、欲望へのブレーキもからなくなりました。規制は自由を妨げるものだと、公共サービスは低下し、今のあなたの惨めさは、すべて自己責任となる。これはかなり過酷な環境です。不安や寂しさが広がり、生きづらくなるはずです。

何より、「誰にも縛られない」と

いうけれど、同時に人間は、誰かとつながつてみたい、承認して欲しいと思う矛盾を抱えた存在ではないですか。そのつながりさえも、すべて個人の力で

Freedom



Monthly Words ~ Monthly Words

獲得しなくてはならないというのも厳しい話です。にも関わらずここ十数年で、個人化・孤立化の傾向はますます加速し、人間関係は大きく変わってしまいました。

このような背景を思うと、SNS上の「見て見てアピール」は、まさに近代化の結果として生まれた「不安」や「寂しさ」を象徴しているように見えるのです。迷惑行為をしてでも、何とか承認を得ようとする姿には、切実ささえ感じられます。しかもそれらは皮肉なことに、他人の目を気にじられます。これはかなり深刻な問題だと思います。生きづらさもなるはずです。こんな状況を次の世代に遺す私たちは、その罪深さと向き合う責任があるのでないでしょうか。

では、どうすべきか。近代化が加速するまで、私たちを承認し、支えてきた人間関係（家族、親戚、地域コミュニティ、会社等）は、すでに瀕死の状況にあります。だからといって、一足飛びに「國家」「国民」「民族」といったものに飛躍するのではなくてはなりません。それらは必ず、過剰な束縛と服従、排除

を強いてくるのですから。歴史をふりし。
傾向が強まつてゐること、ただ昨今、その
いちらくりようぜん
返れば、一目瞭然。ただ昨今、その
けいこう

そもそも仏教では、どんなに正しい

ことであっても、執着し、偏ってはいけないと説きます。

「個人」の解放に執着すると孤立化へと偏り、それを強引に引き戻そっとすると、全体化へと偏る。これは、簡単に解決できる問題ではありません。安易で、わかりやすいスローガンに飛びついても、その振り戻しは大きく、傷跡もまた深くなるのです。

ならば、どうするか。これはあくまでも細やかな一歩かも
しませんが、私は浄土真宗に縁のある方には、阿弥陀さまの出遇いをお薦めしたいのです。

一旦^{いったん}、社会の仕組みやルールが作り変えられてしまうと、それ以前の状態に戻^{もど}るのはかなり難しいことです。しか



し、「聖なるもの」阿弥陀さまに立ち返ることは、いつ、
どのような状況でも可能です。阿弥陀さまは、「大悲無倦常
照我」（『正信偈』）、私たちがどんなに忘れていても、背いても、
倦むことも無く、私を照らし、待ち続けてくだりつていてる

ちなみに、阿弥陀さまと出遇うとは、束縛の中に身を置くものではありません。妄信的もうしんてきに信じることでも、思い込むことでもないのです。私は、これを「等身大とうしんだいの自分に帰る」かえことだと考えています。

弱さや愚かさを抱えた私が、そのまま認められ、受け容れられる。つまり、「承認」が無条件に与えられるのが阿弥

陀^ト々^トまの世界です。だから人と比べることも、他者のウケを気にすることも、「見て見てアピール」も必要ない。自分

を大きく見せることが要らないし、弱さを隠さなくていい

い。自分は自分でしかないことに肯き、素直に頭が下がり、
あやま
過ちや愚かさにも安心して向き合える。つまり、阿弥陀や

の
で
す。

とはい
え、私
たちは
社会の
中を生
きてい
るわけ
ですから、
その
影響
から「不
安」や「寂
しさ」を感
じることも
あるでし
ょう。フ
ラフ
ラする
ことだ
つてあ
ります。
しかし、立
ち戻
る場所、拠
り所
があるからこそ、我
に返
ることも
できる。
誰に何と
言われよ
うと、「阿
弥陀
さまが、知
つていてく
ださつて
いたら、よ
いでは
ないか」と、
自分
の人生
を確
かに歩
むこと
ができる。
このよ
うな道
が、お
寺とい
う場
を通し
て、私
たちには
伝えら
れて
いるの
です。

こんな歩
みをする
人と出
会つたら、
人生は
変
わります。
環境は
変わら
なくとも、
世界と
の向
き合
い方
は確
実に
変
わります。
私た
ちには、
無
条件の
承
認を
与
えて
くだ
さり、
等身大の
自分に
帰
ること
ができる
「聖なる」
世界が用意
されて
いるの
です。

せめてこの歴史を、
このよ
うな生き
方があ
ることを、
況に
ある次
の世代
に伝
えなければ
と、
強く思
っています。
細やかでは
あって
もこの一
歩こそ
が、人生を確
かなもの
としていく
ものだ
とも思
うのです。
■



物でも布施

mono de OFUSE

家庭で眠っている物を、活かしませんか



書き損じはがき・未使用切手 CD・DVD・未使用テレフォンカード

ゲームソフト・ゲーム機器・商品券・ビール券など金券

仏教の精神にもとづき活動するNPO法人『アーユス佛教国
際協力ネットワーク』に送り、海外の難民支援や国内災害の
被災者支援に使わせていただきます。



プルトップも、集めています！

本堂に設置してある回収箱に、お入れください。



仏事、葬儀、納骨…、わからないことや
困ったことがあれば、極楽寺にご相談ください。
ご遠慮なく、どうぞ 0837 (43) 0625



□ 今年の夏は、入退院を繰り返していたので、厳しい暑さを感じる間もなく終わったような気がします。なにせ病院は、二十四時間空調が効いていますから。とはいえ、快適な生活をしていたわけではありません。薬を新しいものに変更したことで、副作用の吐き気が酷くなり、結構大変でした。病院では、食器やシーツ、トイレなど、至る所で消毒液が使われます。私の場合は、その消毒液の独特なにおいを嗅ぐと気持ち悪くなっちゃって。だから、病院の食事がとれず、売店の弁当ばかり食べていました。でも弁当はすぐに飽きるし、消毒のにおいは至る所にあり…。気を紛らせようとカープの試合を見ても、逆に具合が悪くなるようなゲームばかり。散々な夏でした。□ そんな状況の慰めになつたのが、作家・北方謙三の『大水滸伝』シリーズです。中国明時代に書かれた古典文学『水滸伝』(1973年に中村敦夫主演でドラマ化されました)を、大胆に再構築し、新たな命を吹き込んだこの作品。『水滸伝』全19巻、『楊令伝』全15巻、『岳飛伝』全17巻、合計51巻という大長編小説です(実はこの流れに『チンギス紀』17巻があって、その流れを受けて、最終章となる『森羅紀』の連載が始まっています)。一度読破してはいますが、登場人物も多いし、最初の方はどんなんだっただかわからなくなったりして。常々、もう一度きちんと読み直したいと思っていたのですが、今この時しかない!と読み始めると、やっぱり面白くて。ツラい病院生活と、ツラいカープの状況を慰めてくれました。何より北方謙三は、人間の描き方が深いんですよね。一人の人間が持つ強さと弱さ、清らかさと醜さ。乱暴なふるまいの中にある繊細な優しさ。大きな理想に生きる豪傑が、細やかなことに心乱され苦悩する姿が、描き込まれている。私はここに魅かれるのです。□ どうやら来年、織田裕二、反町隆史の主演で、WOWOWがドラマ化するようで。でも、林沖役が亀梨和也くんか。それはちょっと違うんじゃないかなあと、病室で思ったりしている今日この頃です。(住)

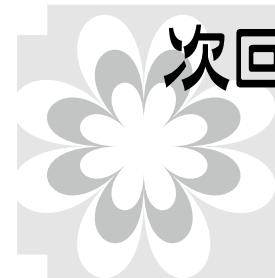
似てますか?



薬の副作用で髪が抜けたので、丸刈りにすると、「前住職とそっくりだ!」と、いろんな方から言われました。確かに、頭の形は似ているなあとは思うのですが、如何でしょうか。写真を並べてみると、私の方が明らかにガラが悪く、悪役レスラーのような気がするのですが。



次回法座の予定



仏婦報恩講 12月18日(木)

除夜の鐘つき 12月31日(水) 元旦会 1月1日(木)

御正忌報恩講 1月15日(木) ~ 16日(金)